



START 事業の背景

国の新基準に対し 迅速な対応で、優位性を築く

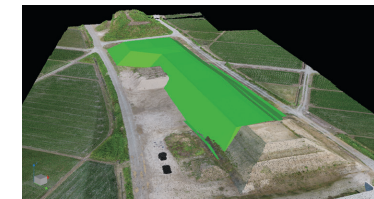
平成 28 年度から国土交通の新基準「ICT の全面的な活用」の推進により、工事測量を立体的に表す 3 次元化が示された。こうした国の動きの中で、いち早くシステムを導入することで他社との差別化を図り、優位性を確立したいと考え、ものづくり補助金を申請。通常の測量会社は、3 次元のデータ作成までしかできないが、設計経験のある同社はデータ作成後に必要な土木設計や施工管理まで対応が可能。一貫した作業を請け負うことで、建設会社の負担を軽減させることを狙いとした。



ACTION 取組の内容

正確さと早さを求めて ドローンを活用

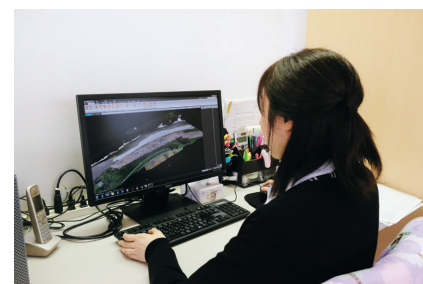
2017 年 6 月に堤防の盛り土を作る工事の測量で初めてドローンを導入。従来、スタッフが測量道具を用いて 9 時間かけていた測量作業だったが、ドローンを使用したことで 3 時間に短縮。さらに地上計測の場合、誤差は ± 2.0mm だったが、ドローンを使うと ± 1.2mm に軽減され、正確さが命の測量で、より正しい数値を素早くチェックできるようになった。また、土木設計や施工管理の経験を持つことから、ドローンを保持する他社と差別化を図り、一貫した作業を請け負える体制が整った。



ABOUT 私たちについて

インフラ設備の根幹となる 基準値を確認する測量会社

測量を中心に土木設計や施工監理なども行う、2014(平成 26) 年設立の測量会社。行政から県内外の建設会社と取引先も幅広い。測量とは、ダムや橋、道路、トンネルなどのインフラ設備において対象となる地物の位置座標、高さ、形状が正しいかをチェックする役割。数値が異なれば工事が出来ないことから、安全に工事を進める上で欠かせない仕事である。業界としてもドローンは注目されており、北陸地方整備局からの依頼で実演をした経験も持つ。



FUTURE 今後の展開

正確さが命の測量だからこそ、 新技術で異なる正しさを追求

今はドローンを使った写真や動画の撮影しかできないが、ゆくゆくはドローンのレーザー測量にも力を入れていきたい。ドローンの測量とは、レーザーを地表に向けて照射し、跳ね返ってくる角度や時間などから位置情報を把握するシステム。レーザーの数は数えきれないほどで、葉の隙間からで

も地表に当てることができるため、上空から撮影しただけでは分かりにくい森林などの地点を測量する場合でも、正確な値を取得することが可能。業界内でもまだレーザー搭載のドローンを扱う企業は少ないので、これを好機に新技術にも挑戦していきたい。

ドローンが撮影した
画像処理にも対応可
能。農薬散布など農
業でのドローン活用
にも貢献したい。



代表取締役
泉田 厚氏

CASE

14

平成 28 年度

株式会社アイウィル

ドローン活用で、 より正確な測量を可能に



Info

■ 技術サービス業

株式会社アイウィル

住 所 新潟県加茂市旭町 1 番 13 号
T E L 0256-53-6117
U R L <https://k-iwill.jp>



会社 HP